塚松山横穴群発掘調査概報

１９９３年９月

島根県簸川郡佐田町教育委員会

Ⅰ　遺　跡　名　　塚松山横穴群

Ⅱ　所　在　地　　島根県簸川郡佐田町大字原田６６１の１他

Ⅲ　現地調査期間　　平成５年９月５日～１５日

Ⅳ　調査主体　　島根県簸川郡佐田町教育委員会

Ⅴ　事　務　局　　島根県簸川郡佐田町教育委員会教育長　　田　中　雄　治
　　〃　　係長　　佐　貫　　守

Ⅵ　調査担当　　島根県八束郡鹿島町立鹿島中学校教諭　　石　井　　悠

Ⅶ　調査指導　　島根県仁多郡仁多町立布施小学校長　　蓮　岡　法　暲

Ⅷ　調査協力　　島根県簸川郡佐田町農林課長補佐　　大　谷　昌　武

Ⅸ　調査の概要

(1) 調査に至る経緯

塚松山横穴群の東側裾部で、総合型林業構造改善事業　林道神和線開設工事が計画されたので、当該区域内の遺跡分布調査を島根県文化財保護指導委員杉原清一、藤原友子両氏に依頼して実施した。調査の結果、区域内には横穴等の文化財に関するものは見当たらなかったが、再度の検討を要する部分もある旨の報告があった。当該区域内は塚松山横穴群の隣接地でさらに実態を明らかにする必要が考慮されたので、この報告を尊重して発掘調査を実施した。

(2) 遺跡の立地

須佐川が北西方向へゆるやかに流路を変換するあたりの南側に位置する。このあたりは、せまいながらも平地が開け、須佐川の北には須佐神社が鎮座する。古墳や横穴群の集中してみられる地区である。今のところ縄文・弥生の遺跡は発見されていないようであるが、古い時代からの中心地といえよう。

遺跡の南側はなだらかな斜面となっていて、広い範囲で住居跡が存在する可能性もある。

(3) 調査方法

地形測量（１／１００）を実施して、調査区を設定の上発掘調査を行った。検出された結果は、写真撮影や実測による記録をとった。

(4) 調査結果

① 検出遺構

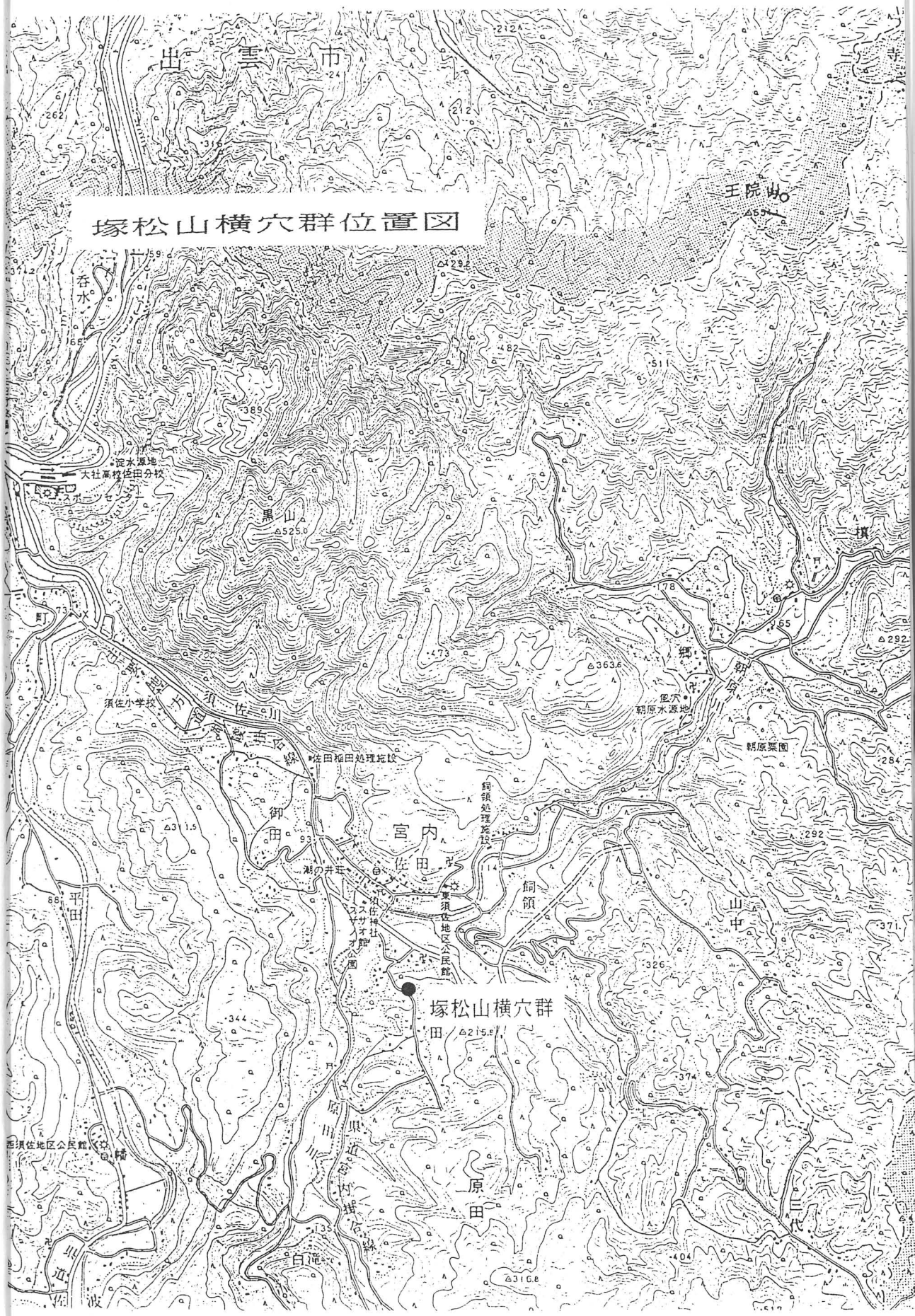
横穴群の裾部で、小崖下の緩斜面に調査区を設定した。発掘の結果、第１調査壙では、上から続く固い地山の崖面があらわれ、その下端から前面に向かって約１．５ｍ幅の平坦面が検出された。なお、崖面の途中に幅１０～２０cmの不定形なテラス状の面が存在する。崖下の平坦面の端近くで径約６０cm、深さ３２cmのピットが検出された。第２調査壙は、調査期間の都合で、上から続く固い地山の崖面検出と平面的には表土までを発掘したのみである。

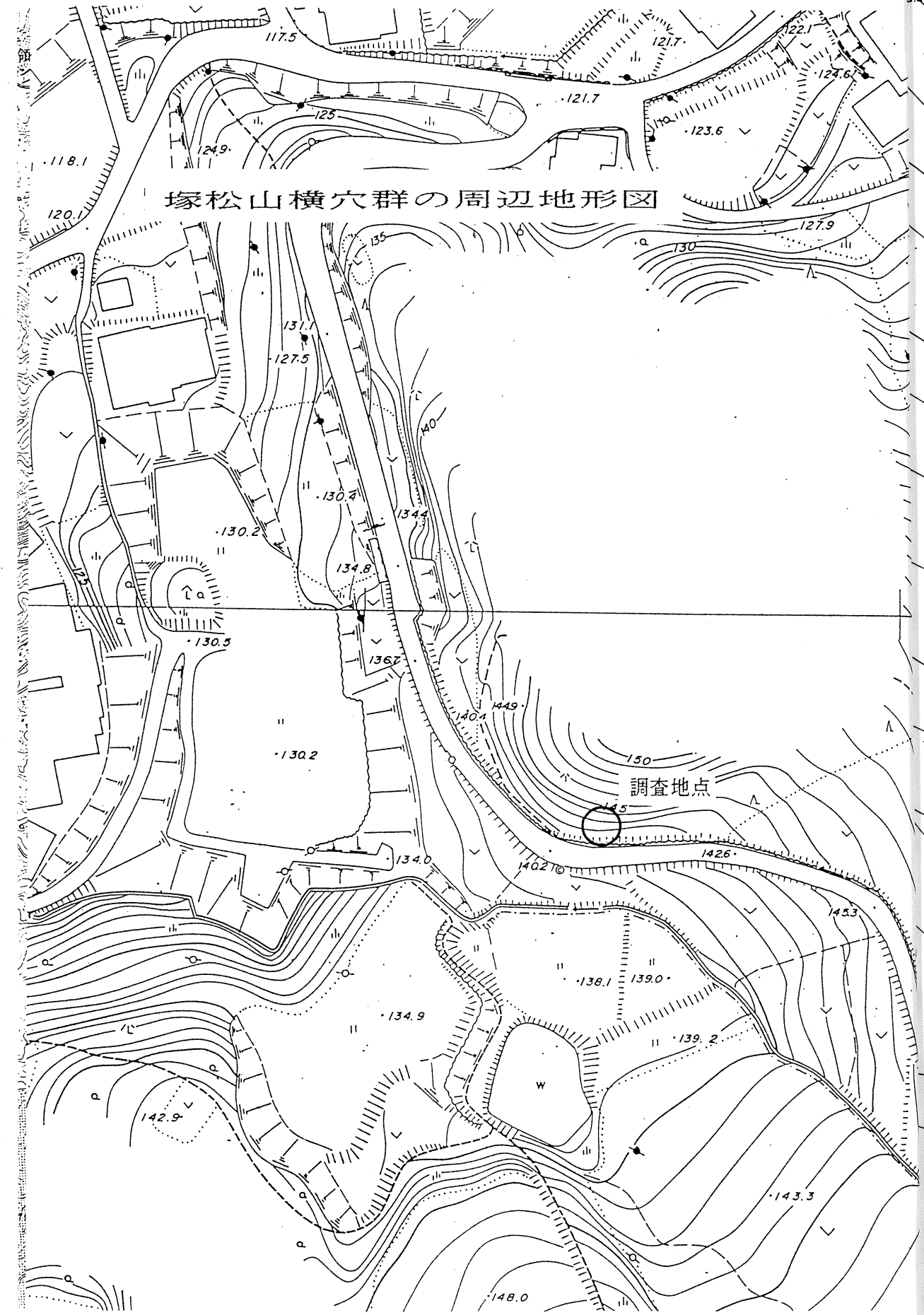
② 出土遺物

表土下の茶褐色土層から須恵器片１８点が出土した。１点は、大型壺の口縁部で一条の凸帯と櫛描き波状文が施されている。他の１７点は、内面が竹管で調整された大型壺の類の胴破部片である。横穴群から転落したものであろう。

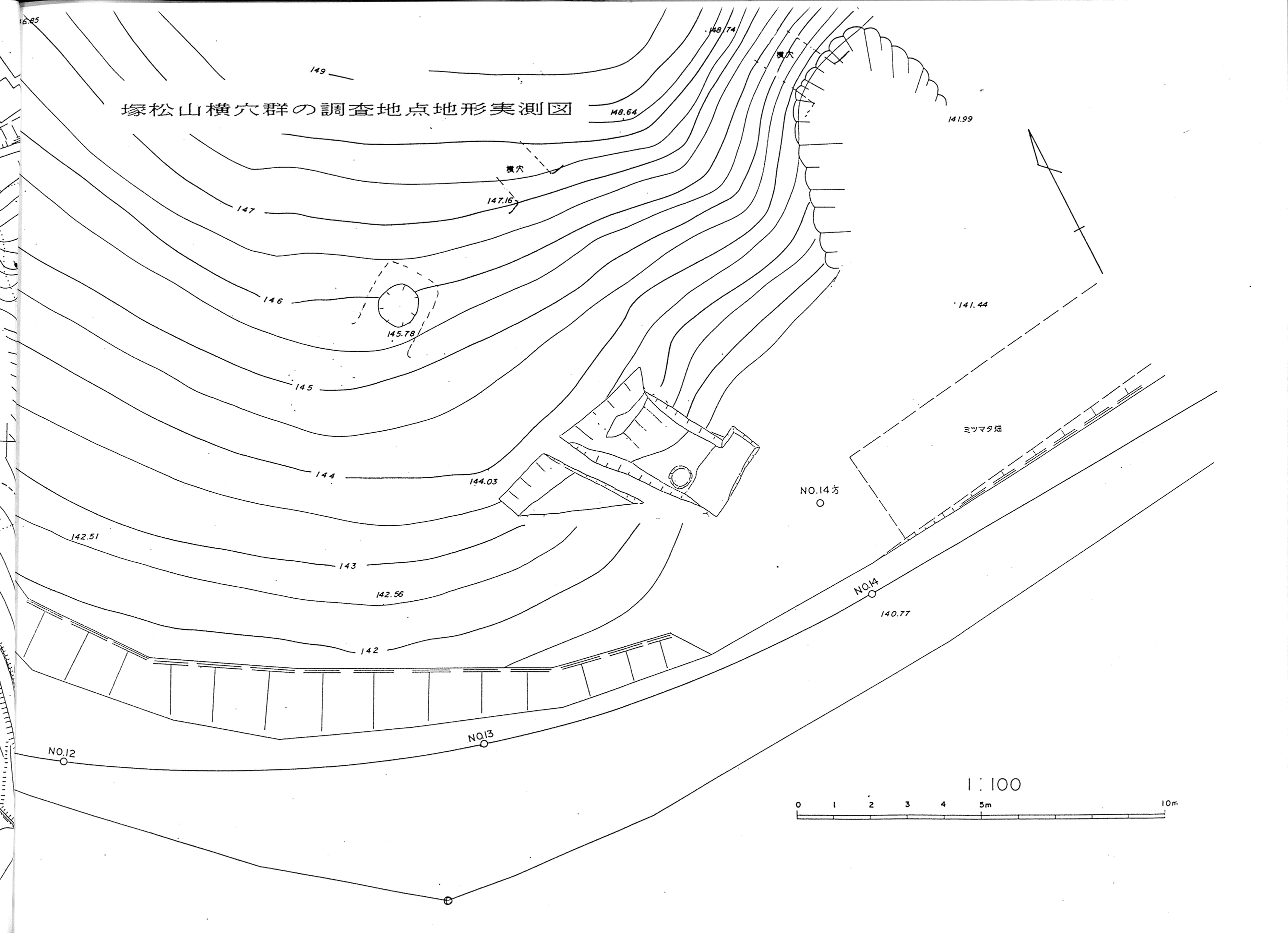
(5) まとめ

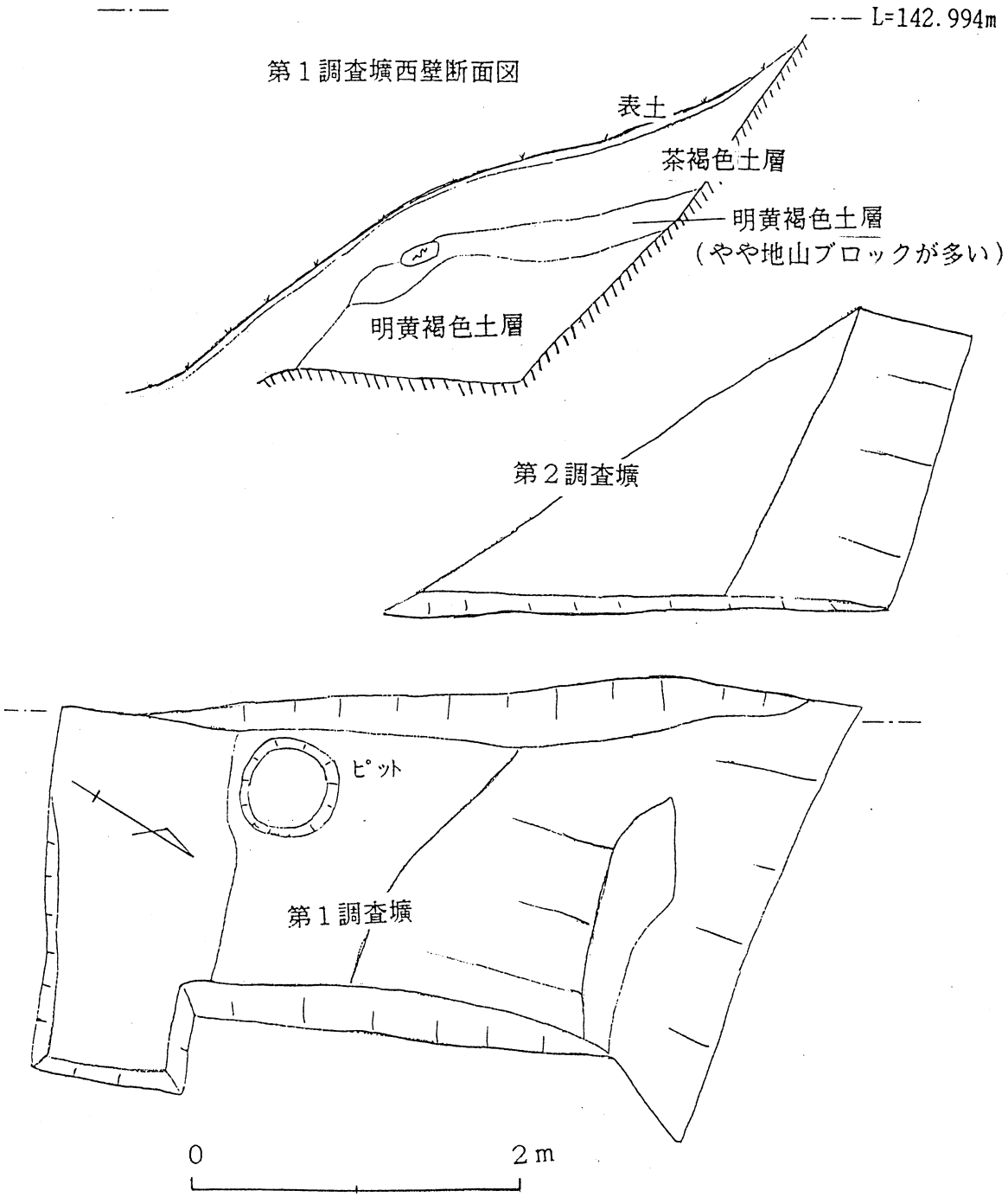
横穴そのものは検出されなかった。また、出土遺物や堆積土層から、検出された崖面および平坦面やピットと横穴群との直接の関係を認めることはできなかった。調査面積がせまいため、詳細は不明であるが、横穴群以外に住居跡が存在するかもしれない。


塚松山横穴群位置図
出雲市
王院山
呑水
淀水源地
大社高校佐田分校
スポーツセンター
黒山
三槇
町
須佐小学校
須佐川
佐田稲田処理施設
御田
宮内
佐田
飼領処理施設
朝原川
風穴
朝原水源地
朝原栗園
飼領
山中
平田
潮の井
須佐神社
スサオ館
スサノオ公園
東須佐地区公民館
塚松山横穴群
田
原田
西須佐地区公民館
白滝
三代


塚松山横穴群の周辺地形図
調査地点
117.5
121.7
122.1
124.6
125
124.9
118.1
120
123.6
127.9
130
135
131.1
127.5
140
130.4
134.4
130.2
134.8
125
130.3
136.7
144.9
140.4
150
145
142.6
140.2
134.0
145.3
138.1
139.0
134.9
139.2
142.9
143.3
148.0

塚松山横穴群の調査地点地形実測図

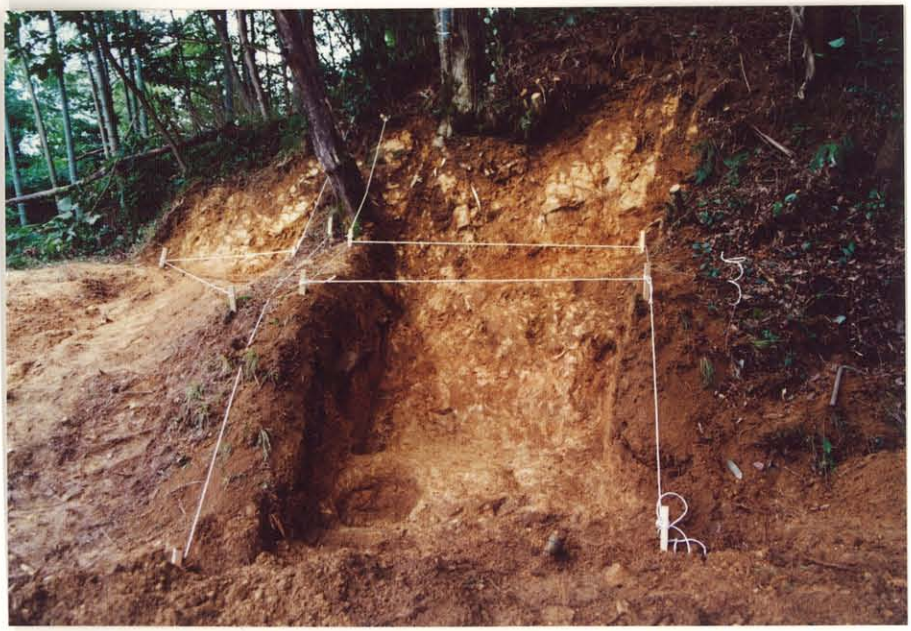



L=142.994m
第１調査壙西壁断面図
表土
茶褐色土層
明黄褐色土層
（やや地山ブロックが多い）
明黄褐色土層
第２調査壙
ピット
第１調査壙
0
2m

余　　白

No. 7.

塚松山横穴群
調査地点 遠景



No. 2

塚松山横穴群
第1 調査壙

余　　白

No. 9

塚松山横穴群
出土遺物

No.

余　　白